

生命の躍動を感じる4月

校長 大谷 京司

4月に入り、目に飛び込んでくる草花に春の息吹を強く感じます。正門を入ると自然保全委員会が植えてくれたチューリップが階段の脇に行儀よく並んできれいな花を咲かせてくれています。校地を見渡すと、山桜、シャガ、ツツジ、キイチゴ、ビワ、プラムなどが花や実をつけ、ここにも春がいるよと告げてくれます。今年度も、今から子どもたちと春探しをするのが楽しみです。



畑のジャガイモも芽を出したよ



バトンは引き継がれた

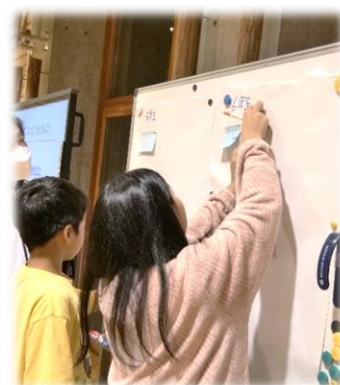
3月1日(金)~2日(土)、1泊2日で5・6年生によるお別れ学校宿泊を実施しました。1日目の夜には

5・6年生がリーダーとしての悩みやその克服の仕方について意見交換を

しました。「低学年が言うことを聞いてくれない。」「自分たちも低学年の時、そうだったよ。」「しっかり、これからやることの目的を話してあげることが大切だよ。」「…

夜の焼きそば、中華スープづくり

リーダーのバトンは確実に引き継がれたようです。



令和6年度の教育活動に向けて

昨年度の自己評価及び学校評価アンケートの結果を踏まえて、今年度、学校運営の改善に向けて力を入れていきたいことは、次の3点です。

- 1 ワクワクして楽しい授業の実践…○個別最適な学びと協働的な学びを往還する授業をデザインします
○プロジェクト学習、朝の低・高学年発表を見直し、充実を図ります
- 2 保護者と教職員の対話の充実…保護者と学校の思いを交換できる場を設定し、共に学校を創ります
- 3 多忙な職員の職務環境の改善…用務員兼運転手の雇用により、職員業務のサポートを図ります

希望を胸に巣立った 8 人の卒業生

3月16日(土)、うらかな春の日の中、令和5年度第12回卒業証書授与式を実施しました。

6年間の中でお世話になった前校長先生や前教頭先生にもご参列いただき、厳かな中にも心あたたまる式となりました。

式の第1部の最後は、卒業研究発表ということで、卒業生が1人ずつ自分の将来の希望についてプレゼンテーションをして、その思いを語ってくれました。



8人それぞれ今の自分を自己分析しながら、将来の希望に向かっていくには、どのような進路の選択肢があり、中学校でどのような力をつけていきたいかということまでしっかりと語っていた姿は実に頼もしかったです。それぞれの発表に共通していたのは、自分のやりたいことの延長上に人を幸せにしたいという気持ちが込められていたことです。小学校で学んだことの集大成として、自分の希望と人の幸せを結び付けて考えられたということは大変意義深いものだと思います。

第2部では、児童会が中心となって、「大切にしよう」というテーマ学習の一環として、縦割りグループの在校生からのプレゼントの贈呈がありました。今年のプレゼントは、みんなから意見を集めて決めた「木でできたペン立て付きカレンダー」にメッセージを添えたものです。



卒業生に喜んでもらおうと、一生懸命に木を切ってやすりがけをし、思いを込めたメッ

ッセージを丁寧に書いていた在校生の姿が印象的でした。卒業生一人ひとりに感謝の気持ちを述べて手渡した後、在校生全員で「旅立ちの時」を歌いました。“夢をつかむ者たちよ 君だけの花を咲かせよう”というフレーズが送り出す私たちの気

持ちを象徴しているようでした。

最後に一言ずつ希望の言葉を発表した卒業生は、在校生やご来賓、教職員で作るアーチの中を正門に向かい色とりどりの風船を手にししました。一斉に手から放たれ舞い上がっていく風船を見上げて、新しい世界へと巣立っていく卒業生と重ね合わせ、改めて「がんばれ！」と心の中でメッセージを送りました。



風船は自然に還る素材の物です